

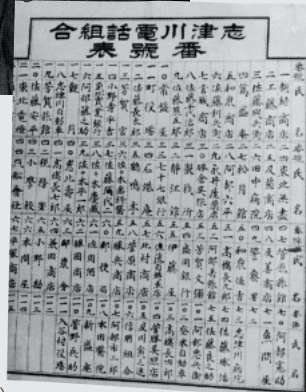
町に電燈がつき、志津川郵便局では電話業務を開始、志津川・石巻間には汽船が走り、柳津・登米間にはバスが開通するなど、大正デモクラシーという民主主義的風潮とともに、志津川町も生活インフラ（基盤）の整備が飛躍的に進んだ時代だった。大正9年（1920）の世帯数は、1,149戸、人口は6,488人だった。

近代化、着々と。町に初めて電燈がつく （旭製糸工場火力発電）

明治45年 大正元年（1912）



一部業務が始まった志津川郵便局
電話交換室（大正8年頃）



志津川電話組合
番号表（大正14年頃）

町に電話が普及し始めた頃の
初期型の電話と思われる

志津川郵便局が 電話事務開始

大正2年（1913）



志津川町報第1号発行

大正2年（1913）



志津川港の賑わい（大正中頃）

町立志津川図書館が、 志津川小学校に開設される

大正4年（1915）



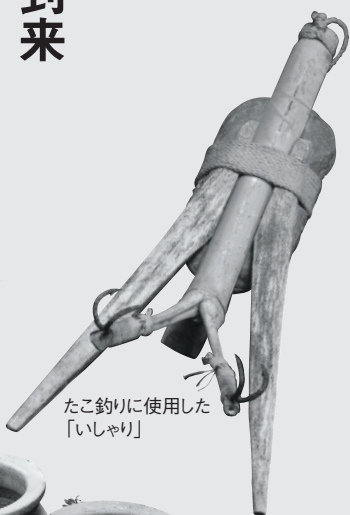
松笠屋敷（大正末期）

第1回国勢調査を実施

（志津川町1149戸、6488人
戸倉村490戸、3227人
入谷村405戸、2605人）
大正9年（1920）

車社会の到来

志津川—米谷間を自動車2台で連絡
志津川—柳津—登米間にバス開通
大正13年（1924）



たこ釣りに使用した
「いしやり」



たこつば



製糸業で活躍した糸車

志津川町での出来事

- 明治45年 大正元年（1912）
 - 6月 志津川に初めて電燈がつく
（旭製糸工場火力発電）
 - 7月 旭製糸が電気事業の営業開始
※この頃、八幡川・水尻川のサケふ化事業が、天然から人工ふ化法に移行（水戸辺川は大正9年頃）
- 大正2年（1913）
 - 3月 志津川郵便局、電話事務開始
 - 6月 志津川町報第1号発行
- 大正3年（1914）
 - 10月 戸倉金ヶ沢鉱山、1ヵ月金54匁を採取
- 大正4年（1915）
 - 11月 志津川小学校に町立志津川図書館を開設／本吉中街道竣工（志津川—弘川—馬籠）
※この頃、湾内に発動機を据え付けた漁船出る
- 大正5年（1916）
 - 2月 志津川町青年団結成、正団員345人、戸倉村青年団結成、入谷村青年団結成
- 大正6年（1917）
 - 5月 志津川電燈株式会社創立
 - 12月 松原公園、町の管理となる
- 大正7年（1918）
 - 7月 志津川汽船株式会社設立（石巻—志津川）
- 大正8年（1919）
 - 9月 志津川町で腸チフス流行
- 大正9年（1920）
 - 10月 第1回国勢調査施行
（志津川町1149戸、6488人、戸倉村490戸、3227人、入谷村405戸、2605人）
- 大正10年（1921）
 - ※この年の車両調査によると（旧志津川分、自動車2、自転車136、客馬車5、人力車8、荷馬車62、荷車113）
※この頃、鮫網漁業盛んになる
（大正末期から昭和7年頃にかけて最盛）
※この頃、細浦でワリの養殖を開始（別に大正7年頃ともいふ）

世の中の出来事

- 第5回五輪大会（13）
- 第一次世界大戦勃発
- 桜島が大噴火
- 東京駅開業
- 宝塚少女歌劇初公演（14）
- 対華21カ条要求（15）
- 護憲運動暴動
- シベリア出兵宣言
- 米騒動
- 原内閣成立（18）
- ベルサイユ和平条約（19）
- 第2回国際連盟総会
- 第1回国勢調査が行われる初のメデー（20）
- 原敬首相暗殺（21）
- 金輪出禁止（17）



明治37年、現在の南町に建てられ、賑わいを見せた劇場「朝日座」の幕

- 大正11年（1922）
 - 2月 志津川郵便局にて電話交換業務本格開始、加入者67人
- 大正13年（1924）
 - 4月 海田寺山に志津川実科高等女子学校設立開校
 - 9月 志津川—米谷間、自動車2台で連絡
 - 11月 志津川—柳津—登米間にバス開通
- 大正15年 昭和元年（1926）
 - 7月 本吉郡役所廃止
- ワシントン軍縮条約調印
- 全国水平社創立
- ドイツの科学者アインシュタインが来日（22）
- 関東大震災（23）
- JOAK（後のNHK）初放送（25）